

スポーツを通じた障害者の社会参加の推進！

(船橋障害者スポーツ・レクリエーション協会の設立)

取材日：平成22年(2010年)9月10日

【活動内容】

自遊時感工房は、会員が気軽に・気楽に・気長に・気持ちよく自遊時感(じゆうじかん)を楽集(がくしゅう)しながら、スローライフを創造しようをモットーに、平成6年12月に設立された団体である。会員は本年3月時点で95名を有しているが、工房では自遊時感(自ら遊び、時を感じて)しながら、やりたいことがあれば自分達で仲間を募り、運営することを基本に、市民生活の寄与と会員相互の研さん・親睦に様々な貢献を果たしてきている。

最近では障害者施設での健康スポーツ吹矢指導(毎月1回)、スルーネットピンポン等の障害者スポーツ体験教室の開催等障害者の生涯スポーツ振興に熱心に取り組むとともに、くらぶ図工の時感(月1回)、映画くらぶ(月1回)等様々な活動をしてきている。

【支援金事業】(支援対象経費総額 619,105円 支援金確定額495,284円 支援率 80%)

2010年全国障害者スポーツ大会の千葉県開催を機に、船橋市の障害者スポーツ・レクリエーションの普及を

図るため、次の4事業を支援金事業として行うことにしている。  
①障害者スポーツ現状調査のためのアンケートの実施、②障害者スポーツ体験教室の開催、③全国障害者スポーツ大会への協力、④船橋障害者スポーツ・レクリエーション協会(仮称)の設立である。

これらの事業を通じて、障害者にスポーツの楽しさを知ってもらい、地域との交流を進めるため、本年12月の障害者スポーツ協会の設立に向け、諸準備を進めている。

今回の事業は船橋市が今年度から導入した「市民公益活動公募型支援事業」で採択された20の提案型事業の中で、特に公益性が高い取り組みとして評価され、支援率が80%となったものである。



障害者スポーツ体験教室

【活動の現場から】

取材当日は、9月第2週の夜7時という時間帯であったが、会場となっていた中学校体育館では工房主催の健康スポーツ吹矢、スルーネットピンポンを始め、別のサークルによるインディアカ(羽根付きボールを使ったバレーボール形式のニュースポーツ)、ジャズダンスの活動が行われており、その熱気とパワーは今年の夏の残暑を吹き飛ばすかのような活動感にあふれていた。

健康スポーツ吹矢はアーチェリーやダーツのように円形の的をめがけ、6~10メートル離れた場所から矢を放つスポーツである。腹式呼吸と日常生活の胸式呼吸の二つを使い、腹筋を使って勢いよく吹く独特の呼吸法が特徴である。本市では市民大学の卒業生が同好会を作り、普及に努めているとのことであった。子どもからお年寄りまで同じルールで、障害者も健常者も一緒に気軽に楽しめ、かつ健康にも優れた生涯スポーツといえる。



健康スポーツ吹き矢

スルーネットピンポンは通常の卓球とは異なり、ネットの下をスルーさせて行うものであり、球の中に入っている小さな鈴の音を聞き分け、瞬時にコースを判断し、相手側に打ち返すスポーツである。

どちらも指導員とスポーツボランティアが指導・協力しながら行うものであるが、障害者と健常者を区別することなく、スポーツを通して同じ空間、時間を共有しながら、健康的な汗を楽しんでいた姿に大変な感銘を受けた。

会場の体育館入り口には段差があり、障害者には使い勝手がよいものではなかったが、入退室に際しては誰とはなく気軽に車いすをサポートしていたのも印象的であった。改めて、公民館・学校等の公共施設のバリアフリー化の必要性も認識されたところである。



スルーネットピンポン

### 【支援金事業のもたらす効果】

障害者と健常者を区別せずに、同じ場所、時間を共有し、同じ種目を一緒にすることで両者の相互理解が深まるとともに、これまでの障害者のスポーツに対する考え方が大きく変わっていくことが期待されている。この事業を通じて障害者がもっと地域に参画していけるような社会への転換につながることを望まれている。

提案型事業の中で今回大きな評価を受けたことに対しては、工房にとっても大変名誉なことであり、障害者スポーツをPRする絶好のチャンスと捉え、協会設立に向け、協力団体や参加者を増やしたいと喜びを表していた。

反面、大きな助成がついたことで、場所の確保、用具の手配、運営体制の整備等について、今まで以上に慎重なやり方にシフトせざるを得なくなったと率直な憂いも吐露されていた。

### 【取材を終えて】

熱心な活動の原点について、次のようなコメントが寄せられている。楽しいことを企画、実施する。参加者が少なくともガッカリしない。3人以上いれば次につながるとして継続実施する。「去る者は追わず、来る者は拒まず」を原則、徹底する。何でも興味を持ってチャレンジしようというのが、工房の活動テーマとのことだった。

この工房の掲げるテーマの追求・実践は、市民活動だけでなく、すべての社会活動の原点を示唆しているような気がする。楽しいことがないと長続きせず、愉しめない。楽しみを求めながら活動を継続させていく重要性を考えさせられたのである。

関わり先（連絡担当者）

自遊時感工房

事務局長 高橋 久吉

TEL：090-4226-9623